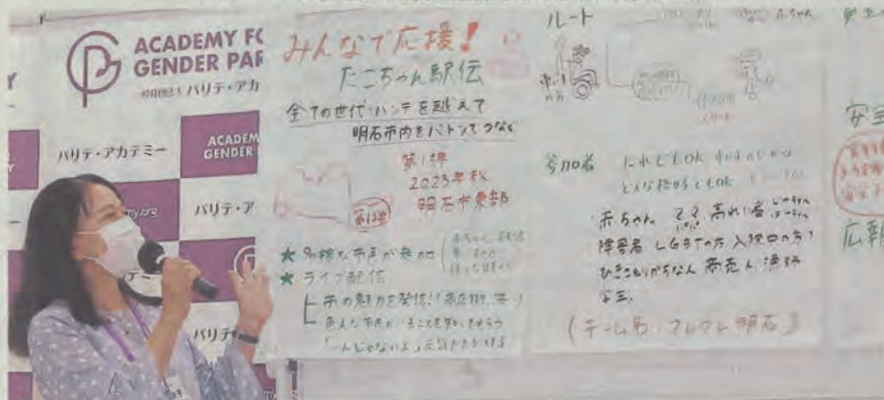


グループでまとめた行動計画を発表する参加者



明石でアカデミー、県内外から31人参加

女性リーダーの育成を目指すプログラム「ウィメンズ・アカデミー」が3、4日、明石市大久保町ゆりのき通1の研修施設であった。ジェンダー平等や多様性ある政治の実現を目指す団体「パリティ・アカデミー」（東京）が企画、運営を担った。県内外から10～70代の31人が参加。自身の経験から課題意識をみつけ、意見の伝え方や仲間のつくり方について講義やワークショップを通じて実践的手法を学んだ。（小尾絵生）

# 育て、増やそう 女性リーダーを

意見の伝え方など実践的手法学ぶ



「子連れシングルへの偏見」「画一的な教育」などそれぞれの課題意識を書き出す参加者＝いずれも明石市大久保町ゆりのき通1

地域で活躍する女性リーダーを増やそうと同市が主催。同団体共同代表の三浦まり・上智大教授が、同市ジェンダー平等の実現に関する検討会の会長を務めたのが縁で初めて開催した。

初日は三浦教授らによる講義があり、政治や行政など重要な意思決定の場に女性が少ないことの問題点を説明。育児休業法やDV防止法など女性に関する政策の多くは女性議員のけん引で実現したとし、「男性と異なる視点、経験がある。それを意思決定の場に持ち込まないと反映されない」と語った。

その後、参加者はグループごとに自身の経験から生まれたい問題意識を共有し、1分間のスピーチにまとめて発表する練習をした。

2日目には、6人1組となって地域課題を設定し、解決のための具体的な行動計画を策定。泉房穂市長の前で発表した。障害の有無や性別、世代を問わず誰でも参加できる駅伝の開催や、女性のキャリア支援のための異業種・同業種交流会といった多彩なアイデアを提案した。

参加した明石市の会社員仲川祐美さん(38)は「ほかの参加者の話から、自分には想像もつかないような悩みがあることに気づけた。考えを言葉にする大切さを痛感した」と話した。